



瀬峰地区下田自主防災本部
本部長 佐々木 栄 さん

地区独自の防災マップ
下田地区では、令和2年に瀬峰地区下田自主防災本部を

増加傾向にある自然災害に
対し、地域ではどのような取
り組みを行っているのか。瀬峰
地区下田自主防災本部の佐々
木本部長にお話を伺いました。

立ち上げました。それに伴い、
市社会福祉協議会の福祉防災
まっぶ作成事業を活用して下
田地区独自の福祉防災マップ
を作成し、各世帯に配布して
います。

マップには、浸水や地盤に
心配がある範囲、水の流れ、
ブロック塀がある場所を示し
ている他、各世帯の許可を得

て、声掛けが必要な世帯や区
長、民生委員の世帯も分かる
ようにしています。
マップを見るだけで、避難
行動をイメージすることがで
きます。



▲訓練開始前の打ち合わせ



▲声掛けが必要な世帯への訪問

安否確認訓練の実施

防災本部では、防災避難訓
練とは別に、安否確認訓練を
毎年5月に実施しています。

この訓練では、本部内に設
置した安否確認行動チームが
主となり、地区内を4つのブ
ロックに分けて巡回します。

各世帯には、無事で自宅に
居ることを示す黄色のタオル
か、すでに避難していること
を示す白色のタオルを、道路
から見える所に掲げるようお
願いしています。こうするこ
とで、安否確認が速やかに行
えるのと同時に、どのタオル
も掲げられていない世帯は、
緊迫した状況にあるかもしれ
ないことが分かるという仕組
みです。

訓練のさいもあり、昨年3
月の地震や7月の大雨の際は
おおむね順調に安否確認をす
ることができました。防災本
部で見回りに来るのが、地
区の皆さんにも浸透してきた
と感じています。

地域ぐるみの防災・減災

地域の介護施設から声を掛
けていただき、車いすなどの
介助が必要な人は、介護施設
へ避難させるよう協力体制を
結び、避難訓練も合同で行っ
ています。

介助が必要な人は、通常の
避難所だと、設備面などの関
係でその後の避難生活が不便
かもしれません。そのため、
専門の知識と設備が整ってい
る介護施設に避難した方が、
安心できることでしょう。
地域の介護施設と連携した
取り組みが、他の地域にも広
がってほしいと思います。

また、安否確認の際、隣の
家の人からも声を掛けてもら
えて、とても安心したという声
を聞きました。高齢者だけの
世帯や独居世帯が増えている
中、隣近所が互いを気に掛け
、有事の際は声を掛け合い一
緒に避難をする関係性が、大切
だと考えています。

普段から顔を合わせたらあ
いさつするなど、小さなこと
でもいいので、近所同士で交
流することが、地域全体の防
災・減災につながっていくの
ではないでしょうか。私たち
も、訓練や行事などを通じて
地域の交流を増やしていきたい
と考えています。

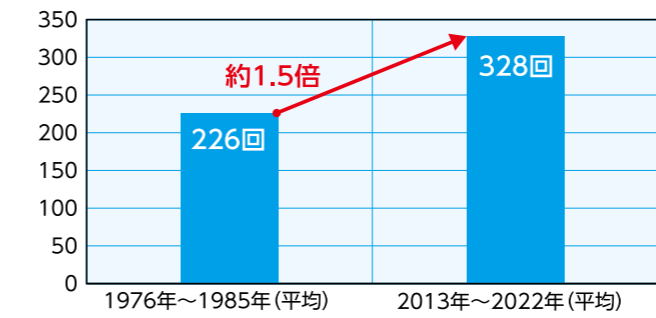
【特集】防災・減災に向けて

これから秋口にかけて、豪雨や台風による
災害が発生する可能性が高くなる時季です。
今回は、いつ起きてもおかしくない自然災
害に対して、防災・減災のために取り組むべ
きことを確認してみます。

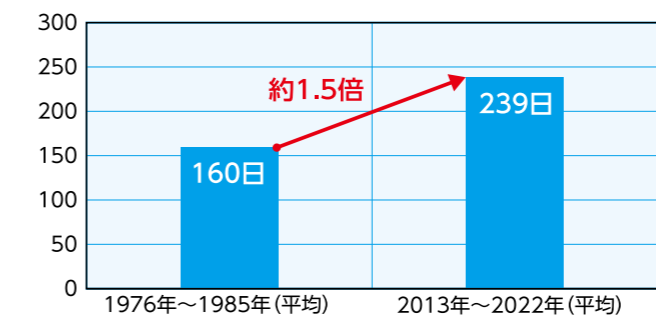


▲令和4年7月の大雨で増水した小山田川によって水没した道路

●全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数



●全国の日降水量200mm以上の年間日数



※気象庁ウェブサイト「大雨や猛暑(極端気象)のこれまでの変化」を基に作成

近年の自然災害の状況

近年、地球温暖化などの影
響により、世界的に自然災害
の激甚化・頻発化が叫ばれて
います。
気象庁の地域気象観測シス
テムアメダスの観測では、全
国で1時間降水量50ミリメー
トル以上の短時間強雨が発生
した頻度や、1日の降水量が
200ミリメートル以上の大
雨を観測した日数は、197
6年以降の統計期間で増加傾
向にあります。1976年から
1985年までの10年間と、
2013年から2022年ま

での10年間で比較すると、約
1.5倍増加しています。
平成27年9月関東東北豪雨
や令和元年東日本台風などは、
日本各地で災害を引き起こし、
市内も大きな被害を受けてい
ます。また、令和4年7月の
大雨では、迫川や小山田川な
どが避難判断水位に達し、各
地域に避難指示や高齢者等避
難が発令された他、市道や農
道、水路など、800件以上
の被害が発生しました。
今後も地球温暖化の傾向が
続いた場合、自然災害のさら
なる激甚化・頻発化が予測さ
れています。